|  |
| --- |
| 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表 |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 法人名 | 合同会社ゆずり葉 | 代表者 | 木津　朋泰 |  | 法人・事業所の特徴 | 【経営理念】私たちは介護等の支援や自主的奉仕活動を通し微力ながら社会に安心と希望が抱けるよう貢献します。創意工夫により、支援を受けられる方々の想いを言葉に、希望をかたちに出来るよう努力します。また社会が必要としている様々な事柄に対して私たちは何かを行い、何を担えるか積極的に提案します。また私たちは自分たちの力だけで様々な活動を行うことは出来ません。常に謙虚さを忘れません。私たちと共に日々関わってくださる方々、助けてくださる方々や応援してくださる方々、私たちの支援を受け入れてくださる方々に感謝の念を忘れません。 |
| 事業所名 | 朝焼けとひつじ雲 | 管理者 | 河合　敬貴 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 出席者 | 市町村職員 | 知見を有するもの | 地域住民・地域団体 | 利用者 | 利用者家族 | 地域包括支援ｾﾝﾀｰ | 近隣事業所 | 事業所職員 | その他 | 合計 |
| 0人 | 0人 | 0人 | 人 | 2人 | 1人 | 人 | 3人 | 2人 | 8人 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | 前回の改善計画 | 前回の改善計画に対する取組み・結果 | 意見 | 今回の改善計画 |
| Ａ．事業所自己評価の確認 |  |  | ・開所してまだ1年なので無理な目標ではなく、実践可能な目標を設定してはどうか？・研修（内部、外部）は年間スケジュールをたて研修の参加を促してはどうか？ | ・改善計画を実践可能な計画に立て直し、職員全員に周知する。・研修の年間スケジュールを立て職員全員に参加を促していく。 |
| Ｂ．事業所のしつらえ・環境 |  |  | ・開放的で明るく雰囲気も良い。・訪問時、特に気になる音や臭いを感じたことはない。・開放的なのはいいが、安心して休める場所はあるのか？間仕切り等で利用者様が安心できるパーソナルスペースを作ってみてはどうか？ | ・引き続き、事業所内の整理整頓や不快な音や臭い等が無いように気を付け、入りやすい環境作りや居心地のいい空間作りに取り組んでいく。・利用者様が安心して過ごすことができるパーソナルスペースの検討。 |
| Ｃ．事業所と地域のかかわり |  |  | ・地域の方々は建物自体知っているが、どんなことをしている施設なのか中身までは知らない。福祉業界の方々への認知度は高くなってきている。・コロナも5類になるので、森田地区のふれあい祭りに参加してみてはどうか？ | ・引き続き民生委員、地域包括センターに運営推進会議に参加してもらい、地区の資源について情報を得ていく。・コロナの状況を見ながら、森田地区のふれあい祭りに参加する。 |
| Ｄ．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み |  |  | ・コロナで外出する機会が少なく地域に出向くことが難しかったと思う。コロナも5類になるので、感染症対策をしながら地域に出向いていってはどうか。 | ・コロナの状況を見ながら感染症対策をし、地域行事への参加や散歩やドライブなどで地域に出向く機会を増やす。 |
| Ｅ．運営推進会議を活かした取組み |  |  | ・民生委員との関係を築いていき、ゆくゆくは福祉委員にも参加してもらえるようにしていけたらいいのではないか。・事業所を知ってもらい、認知度を高めていってほしい。 | ・コロナの状況にもよるが、引き続き、定期的に対面での運営推進会議を開催し、よりよい施設つくりのためにも意見交換し、必要に応じて改善していく。・事業所を知ってもらうため広報誌の作成の検討。 |
| Ｆ．事業所の防災・災害対策 |  |  | ・大変だとは思うが、BCPの作成に取り組んでいただきたい。・森田地区は九頭竜川が近くにあるので水害はいつおきてもおかしくない。垂直避難を頭に置き、災害計画を立ててほしい。・防火訓練の報告も運営推進会議でしていただきたい。 | ・運営推進会議にて防火訓練の報告を行う。コロナの状況にもよる が、事業所の防火訓練にも地域の方に見学や参加してもらえるようアプローチをしていきたい。 |